

## <原信夫とシャープス&フラッツ プロフィール>

1951年、10人編成で「シャープス&フラッツ」をスタートさせた原信夫は、短期間で現在と同じ17人編成のビッグ・バンド・スタイルを取り入れ、アメリカのスイング・ジャズからモダン・ジャズへの推移を敏感な感覚で捉え、いわゆるダンス・バンドではないコンサート・バンドとも言うべき、「デューク・エリントン」「カウント・ベイシー」「ウディ・ハーマン」「スタン・ケントン」などの本場のトップクラスを射程におさめた音楽活動を繰り広げていった。

58年には初リサイタルを成功させ、「NHK交響楽団」「日本フィルハーモニー交響楽団」「東京フィルハーモニー交響楽団」との共演など、音楽性の高さは初期から高く評価され、熱狂的なファンだけでなく全国規模で幅広い音楽ファンに受け入れられた。そして国民的スターであった「美空ひばり」と出会い、原信夫自身の作曲による『真っ赤な太陽』の大ヒットは周知のとおりである。そうした多岐にわたる活動の中でも、ジャズ・ビッグ・バンドとしての本質はかた時も失われず、<アメリカ・ニューポート・ジャズ・フェスティバル><スイス・モントルー・ジャズ・フェスティバル>に出演するなど、海外でも大成功を収め、その後もアメリカ、ソビエト、ヨーロッパ、アジア各国から招待され、多くの公演を行った。さらに「クインシー・ジョーンズ」「サミー・デイヴィス Jr」「ダイアナ・ロス」「イブ・モンタン」「パット・ブーン」「ペリー・コモ」をはじめとする国際級の大スター達と多数共演し、世界の『シャープス&フラッツ』としてその実力をさらにアピールした。

また、若いアマチュア音楽家に対する支援活動「青少年ジャズ・ミュージック・サクセッション (JMS)」を設立し、北海道や高知、浜松などの国内各地で「クリニック&コンサート」を開催し、音楽教育活動の一環として、中・高等学校の芸術鑑賞会にも積極的に参加している。浜松では、1994年から浜松市音楽文化顧問に、1998年の期間終了後は、音楽文化名誉顧問に就任。アクトシティ音楽院開校と同時に、「原信夫のバンドクリニック」が立ち上がり、積極的な指導を行う。

こうした幅広く精力的な活動によって、「南里文雄賞」「芸術祭優秀賞」「芸術祭賞」「日本レコード大賞/功労賞」など数々の賞に輝く。また、リーダー原信夫自身も長年にわたる日本の音楽文化に対する貢献が高く評価され、88年に「紫綬褒章」、98年には「勲四等旭日小綬章」を叙勲。

1958年の初リサイタル以来、周年記念コンサートも定期的に行い、2001年、渋谷オーチャードホールにて結成50周年を記念したリサイタルを開催、好評を博す。2009年、天皇皇后両陛下御成婚50年及び天皇陛下御即位20年奉祝行事にて御前演奏の榮譽に浴する。そして、その輝く60年の足跡をジャズ界に刻んだ「ファイナルコンサート 2008-09」を敢行。2010年2月11日、アクトシティ浜松でのグランドファイナルコンサートを最後に、その栄光の歴史に幕を閉じた。